

< もくじ >	
1. 2016年度定時総会・第15回大会開催日決定のお知らせ	1
2. 第2回研究会合同イベント参加申し込みについて	1
3. 今年度連続講座全6回は好評のうちに終了しました	2
4. 研究会からのお知らせ	2
5. 研究会の概要報告	3

1. 2016年度定時総会・第15回大会開催日決定のお知らせ

2016年度定時総会・第15回大会の開催日は、6月5日（日）に決まりました。会場はいつものお茶の水女子大学です。何卒ご予約下さい。

来年度は第3期3ヶ年計画の初年度に当たり、今日的課題に取り組みます。3ヶ年の基本テーマは、「持続可能な超高齢社会」。そして初年度（2016年度）の大会テーマは、「現代日本の格差と貧困」です。現在プログラムを作成中です。ご期待下さい。

それに続く次年度（2017年度）の大会では、「現代日本の格差と貧困」の問題解決に結びつくような、地域雇用や絆づくりなど、各地域でのさまざまな地道な取り組みなどを参照しながら、「持続可能な高齢社会」の条件を継続的に探っていく予定です。

2. 第2回研究会合同イベント参加申し込みについてのお知らせ

この度出版した『コミュニティ学のススメ』（日本地域社会研究所刊）—参加者には資料として当著書を配付します—の執筆者を囲み、参加の皆さまとコミュニティに関わる諸問題を話し合う当イベントは、残席がわずかとなりましたのでお知らせします。

1) 日 時：2016年3月26日（土） 14:00～16:30

2) 場 所：日本労働者協同組合連合会会議室（東池袋1-44-3ISP タマビル8階）

3) タイトル：“丁々発止語り合う会”「コミュニティ学のススメ

～ところ定まれば、こころ定まる～

4) プログラム：

<第1部 14:00～15:10 司会：碓正義さん（当学会員）>

①袖井会長挨拶

②濱口座長問題提起

③著書『コミュニティ学のススメ』の執筆者4名によるメッセージ

・駒宮淳子さん（当学会員・福島避難者支援活動） ・佐藤敬さん（当学会員・主夫）

・杉山由美子さん（当学会員・フリーランスライター） ・福元公子さん（当学会員・独立型社会福祉士）

<第2部 15:20～16:30 司会：安田和紘さん（当学会運営委員）>

④各研究会代表者によるコメント ・社会保障研究会 ・災害と地域社会研究会

・シニアのICT活用研究会 ・ガバナンス研究会

⑤会場参加者との交流

5) 参加費：1,000円（資料代、義援金代他を含む）

6) 募集人員：50名（残席わずかになりました）

- 7) 申込み方法：お名前、連絡先をeメール、電話、FAXで事務局まで。(50名になり次第、締め切りさせていただきます。)
- 8) 会場への略図：ご希望の方には改めて略図を送付致します。
- 9) 問合せ：事務局まで(担当：島村)

3. 今年度連続講座全6回は好評のうちに終了しました

今年度も多くの方にお出でいただきありがとうございました。来年度も、9月から全6回のシリーズを予定しております。6月の大会で概要をお知らせする予定です。

◇連続講座第6回参加者の感想(アンケート回答より抜粋)

第6回講座「納得の旅立ちのために」講師：志藤洋子

- ・感想1：9月5日より連続講座、2月20日が来てしまいました。月日が早くこれからの人生楽しく過ごせたらと思っております。6回と銀座へ楽しかったです。ありがとうございました。ご発展をお祈り申し上げます。(70代女性)
- ・感想2：人口比率の考え方、74才まで活躍する事が超高齢社会を支えると言う点は発想の転換で興味深かった。死のプロセスを学ぶ事の重要性も含めて情報発信していただきたい。(30代男性)
- ・感想3：「納得できる旅立ちのために」こんなに真摯に死の直前の状態まで追体験したたような気になり、深く知識を得ました。お金もかかる(想像していたより)今日参加させていただき良かったです。外は荒天の様子でも、心は充実しています。ありがとうございました。(70代女性)
- ・感想4：今日的なテーマで大変興味深く伺いました。今回のテーマにも関連しますが昨今の高齢者問題に関わる議論は「地域包括ケアシステム」が機能することを前提としているように思えます。そこに抜かりはないのか(地域格差も含め)議論が必要ではないでしょうか。例えば訪問介護すらない地域が沢山ある事実をどう改善するかという事も・・・(60代男性)
- ・感想5：99才の母を看ています。この正月に転倒し骨折し入院しています。手術はしないことになり、骨が固まるのを待って退院し次の施設を現在検討しているところです。母を通して自分の事も深く考えるようになりました。(70代女性)
- ・感想6：分かりやすく為になりました。がこれは入り口の話で学んで捜して選んでいかなければいけないオチオチして居られないのだと思いました。シニア社会学会でもまた教えて頂ければ幸いです。また学び方捜し方のポイントを教えて頂けると、より分かりやすいかと・・・(属性無記入)

4. 研究会からのお知らせ

(1) 第31回「シニア社会のリテラシー研究会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2016年3月23日(水) 15:00~18:00(今回は水曜日の開催ですので、ご注意ください。)
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：①著書完成報告
②3月26日(土)研究会合同イベントの最終確認
- 4) 参加費：300円 (島村記)

(2) 第30回「災害と地域社会研究会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2016年3月29日(火) 18:00~20:00
 - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館5階第5会議室
 - 3) 報告者：野坂 真(早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程)
 - 4) テーマ：「地方における地域社会の災害復興と地域存続の戦略—東日本大震災津波前後における災害過程の分析より—(仮)」
 - 5) 参加費：500円(学生は無料、ただし社会人入学者を除く)
- ※お問い合わせ、参加申込は事務局・福原(fukuhara@jaas.jp)迄お寄せ下さい

(3) 第94回「社会保障研究会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2016年4月20日（水） 18：00～20：00
- 2) 報告者：福田 明美（日本電気株式会社）
- 3) テーマ：「マイナンバー最新情報」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室

東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

※ご質問がございましたら、佐藤まで。090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

3月は研究会合同イベントが開催されますので、社会保障研究会はお休みです。

(4) 第18回「ガバンス研究会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：4月27日（水） 14：00～16：00
- 2) 場 所：地域サロン「ぷらっと」（武蔵境駅北口徒歩5分）
- 3) テーマ：「どうなる消費税」
- 4) テキスト：なし
- 5) 参加費：1コイン（500円）
- 6) 申込み：地域サロン「ぷらっと」（武蔵野市境3-12-10）

Kawamura0515@yahoo.co.jp

(4) 「シニアのICT活用研究会」の開催について

※ただいま休会中ですが、4月以降に再開の予定です。あらためてお知らせします。

5. 各研究会の概要報告

(1) 第93回「社会保障研究会」の報告

- 1) 日 時：2016年2月17日（水）
- 2) 場 所：日本労働者協同組合連合会会議室（ISPタマビル8階）
- 3) 講 師：皆川 鞆一（北欧社会研究所代表、元共同通信社論説委員）
- 4) テーマ：「デンマークの高福祉事情と政治的苦悩

～難民は『世界一幸福な国家』へ向かう～

国連調査で2度も「世界一幸福な国」に選ばれた北欧デンマーク。「人間大国」とも呼ばれる同国の高福祉事情は、今でも高水準を保ち少子化にも歯止めを掛け、先進国では異例の約1.9人の出生率を維持している。「モノよりこころ」を優先し、平等主義の哲学を基盤に、個人の自由を極端にまで認め、歯科を除く医療費、教育費は無料である。国家予算の約75%が教育、医療保険、福祉や文化などに使われる。それらを支えるため国民は収入の半分近くを直接税として納め、それに25%の消費税だ。それでも国民に声を掛けると、大半が「この国に生まれて良かった！」とほほ笑む。税金は連帯感の証でもあり、納めた税金は福祉サービスの充実で納税者に戻って来るから、税金は「見返り」があり「国に預けた預金」と考えているのである。

同国は人道主義の観点から、長年にわたって毎年数万人の移民・難民を受け入れ、自国民と平等に個人の権利を認め、差別なく自由に生活できていた。昨秋、私自身が「自国民と平等に」という貴重な体験をした。福祉関係の大親友の「古希」を祝福するために一人でデンマークに出掛けた際、突然右わき腹に激痛が走った。親友が運転するドライブ中で、痛みは続き、吐き気も加わる。「これは盲腸だわ」と、最も近いオーデンセ大学病院に約1時間掛けて運んでくれた。診断はやはり盲腸炎で、手術は簡単に済み、翌日退院。心配は医療費が、どれだけかだ。「医療費？もちろん無料よ。誰も、一緒」と解放された次第。医療費、教育費は無料とは分かり切っていたが、まさか個人旅行者にまでとは知らなかった。不明を恥じた。

世界に冠たる高福祉国家は今でも健在である一と、実感した。そうした寛容さや人道主義国家として移民・難民を積極的に受け入れて来たことが現在、大きな政治問題になっている。「欧州全体で1

00万人を超す難民のかなりの数が、ドイツなどを經由して北欧の両福祉先進国を目指している」のである。折しも、両国とも欧州の主要国同様に右翼・保守系政党の躍進が目覚ましく、前向きであった移民・難民の受け入れを一転、保護費の増大や治安悪化を懸念し「反難民」を掲げ、過激で残酷な難民抑制策を取り始めた。両国とも国境管理を強化、国境を結ぶ橋を通る電車やバスで入国する人々の身分証明書確認を開始した。豹変ぶりの象徴はデンマーク議会在「難民申請者から財産を没収できる」という法案可決。1万²（約17万円）を超える現金や所持品を入国時に警察が押収できる」のだ。生活必需品、銀行口座や思い出の品は例外となるが、貴金属やパソコンは没収対象、難民の食費や滞在費用に充当されるというが・・・。

人道主義を誇る両国の冷酷な難民抑制策は、これからどう展開するのか。難民による“福祉のタダ乗り”が増えれば、国家の根幹を揺るがしかねない。特にデンマークは「世界一幸福な国」を、いつまで維持できるのか？難民危機が両福祉先進国家に、どんな政治的影響を与えるかを注目して見守りたい。（皆川鞆一記）

(2) 第30回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2016年2月18日（木） 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室

3) テーマ：①出版の進捗状況について

安田コーディネーターから略予定通り進行している旨報告。

②300冊の対処について

300冊の納品方法、支払い等に付き、意見交換を行なう。

③3月26日（土）研究会合同イベントについて

該イベントの動員対策、シナリオ、役割分担、レジュメ、アンケート等の課題について議論し、円滑な運営遂行を確認した。（島村記）

(3) 第29回「災害と地域社会研究会」の報告

1) 日 時：2016年2月25日（木） 18:00~20:00

2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室

3) 報告者：松村 治（早稲田大学総合人文科学研究センター 招聘研究員）

4) テーマ：「心のケア」から「ウェルビーイングの向上」へ

—福島からの避難者に対する支援の転換—

東日本大震災の被災者の心の支援に関しては、発災当初から「心のケア」という観点からの支援活動が展開されて来たが、十分な成果があがっていないとの指摘がなされ、その原因は一に、心のケアの対象となる避難者は避難者全体の一部であるため、避難者全体の心の支援にならないこと、二に避難者の多くはひきこもり傾向が強く、戸別訪問による専門家などの面談に応じないことであるという。昨年ごろから、「心の復興」という前向きな視点からの支援に目が向けられ始めたことを評価しつつ、「心の復興」を実践活動に結び付けるべくウェルビーイングを指標とする提案をし、実践を通じた成果が報告された。

色々な地域に避難された避難者への自治体の支援は「心のケア」が大事ということで行われてきた。この場合、避難者を PTSD にしてはいけないという「心のケア」に傾注するあまり、避難者全体が対象であることが忘れられている。ケアの対象となる避難者は避難者全体の一部である。避難者はサロン等に出てくる人ばかりでなく、引き籠ってしまう方々もあり、支援の対象から抜け落ちている避難者も多い。原発災害の被災者に多く見られるのは、足場の喪失、生きがいの喪失に起因するような悲嘆からの回復のプロセスが完了しないので、引き籠りになってしまう場合が多い。

松村さんが支援と、研究のフィールドとしている避難地域の一つが山形市で、その支援者が復興庁とつながりがある。「心の復興」のために、ウェルビーイングを指標として支援をするという考えに基づいて、山形市が質問票の作成から始まる支援活動が実施されたことを伝えられた復興庁もこれを高

く評価したとのことである。

ウェルビーイングを構成する要素の一つは、感情面でのウェルビーイングで、ポジティブ感情、ネガティブ感情、人生に対する満足などがあげられる。もう一つは活動面でのウェルビーイングで、心理的ウェルビーイング（自律、人生の目標、自己実現など）、社会的ウェルビーイング（地域の一員、社会的な貢献など）の程度がどれほどであるかに関わる。この総合が個人のウェルビーイングである。ウェルビーイング個々の要素についての尺度はあるが、全体を統一したよい尺度はないので、個々の要素の尺度を用いてウェルビーイングを測定し、その結果から全体的なウェルビーイングを把握することとし、質問票を作成した。山形市での避難者調査結果は平均値より全体的に低い値であった。調査結果に基づき個別にライフスタイルの改善に関わるコメントを返した。面談を希望する方には社会福祉協議会の生活相談員と同行し一時間程度を充てた。制度の中で役割を持った人（例えば生活支援相談員）が戸別訪問し寄り添って行くというプロセスで、専門性より寧ろ熱意ある活動が効果的であることが判った。自ら改善しようという気持ちを醸成していくことが重要と思う。また、戸別訪問の面談を通じて、ウェルビーイングを高める2本柱は、自然とふれあう（庭での野菜づくり、家庭菜園）、地域に溶け込むことであるということも判ったと報告された。

「心のケア」を前提にアプローチするのは病気モデルだが、「ウェルビーイングの向上」を前提にしたアプローチをするのは健康モデルであり、「心のケア」も包含している（とくにウェルビーイングの低い人を対象に）。

今後、東雲の公務員住宅に福島から避難している1,000人ぐらいを対象に調査をしようとしているとのことである。

（福原 記）

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月・水・金オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>